

## 第2学年 社会科（歴史的分野）学習指導案

平成27年10月8日第5時限

### 1. 単元名 近代国家への歩み

#### 2. 単元設定の理由

##### ①単元観

本単元は、中学校学習指導要領（歴史的分野）の内容「（5）近代の日本と世界」の中の中項目ウに基づき設定している。学習指導要領では、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解させることをねらいとしている。

明治時代は、資本主義を背景に欧米諸国がアジアへ進出する複雑な国際情勢の中で、我が国が政治、外交、産業、生活、文化など様々な面で近代化を進め、アジアや欧米諸国と密接なかかわりをもちながら進展してきた時代である。明治新政府は学制、税制、兵制を中心とした諸改革により、短期間に近代国家の基礎を整えていった。そして、明治時代の中頃になると、自由民権運動や憲法の制定によって、当時アジアで唯一の立憲制の国家が成立し議会政治も始まった。

このように急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましや複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力に気付かせるとともに、その中で起こる新政府と民権派との衝突、それぞれの政治の進め方に対する考えの違いを理解させ、政治への関心を深めていくために本単元を設定した。

##### ②生徒観

本学級は、男子8名、女子12名、計20名のクラスである。歴史的分野が好きな生徒が多く、授業に対して意欲的に取り組む雰囲気がある。しかし、言葉を断片的に捉え、記憶しているだけにとどまっている感もある。歴史的背景を捉え、その時代の特徴をまとめたり、資料を活用して表現したりする力が弱く、挙手発言等でも発表者が固定化する傾向にある。日米修好通商条約を結んだ井伊直弼の判断について尋ねたときも発表者の意見に流され大きく偏ってしまうような傾向も見られた。明治時代においても、明治新政府の諸改革を知識的に捉えてはいるが、政治や生活の面で大きく変化したことについて問われると答えられない生徒が多い。

##### ③指導観

本単元では、明治維新の経緯、急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましについて学習する。歴史的な流れをつかむだけでなく、明治政府の欧米諸国に負けないための諸改革と強引なやり方に反対する民権派の人々との間にある政治に対する方策の違いを理解させるとともに、その方法について話し合いを通して追究させ、様々な考えに触れることで歴史のもつ意味やその後の日本の歴史に対する関心を高めることにもつなげていきたい。歴史に対する話し合いによって、様々な意見に触れ、より深め合い、学ぶ楽しさにもつなげるよう工夫したい。

##### ④学び合いの視点

「展開」において、各自のワークシートへの記入をもとにして意見交換を行い、友だちの発言と自分の発言を関連づけながら考えを修正したり、深めていくことにつなげていきたい。

### 3. 単元目標と評価規準

- (1) 【関心・意欲・態度】急速に近代化を進めた我が国の国際的地位の向上と大陸の関係のあらましについて意欲的に追究している。
- (2) 【思考・判断・表現】新政府の諸政策を、多面的・多角的に考察し、公正に判断できる。
- (3) 【技能】文献などの資料をもとに、それを活用し、考察した過程や結果をまとめたり説明したりできる。
- (4) 【知識・理解】中央集権国家としての近代日本を理解し、その具体的な要件（富国強兵）となる知識について理解している。

4. 単元の指導計画（全5時間）（評価計画は別紙）

- 第1次 欧米とアジアで異なる外交
- 第2次 変わる沖縄と北海道
- 第3次 自由と民権を求めて（本時）
- 第4次 帝国憲法の成果と課題
- 第5次 形成される日本国民

5. 本時目標

- ・新政府と民権派の政治に対する方策の違いを自分なりに考察できる。
- 他者との意見交換を通して、多面的・多角的に歴史事象をとらえることができる。

6. 準備

授業ノート、ワークシート（民撰議院設立の建白書（意見書）、大久保利通の考え）

7. 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点と◆評価
導入 10	1. 前時の復習 ・新政府の政策について思い出す。 2. 新政府との対立により自由民権運動がはじまったことを知る。	・ノート、ワークシートを確認し、既習事項を思い出させ、流れをつかませる。 ・民権側と新政府側とで意見が対立していたことを確認する。
展開 5 5 10 5 開	3. 本時の課題を確認する。 <b>新政府（大久保利通）の考え方について、賛成か反対か決め、その理由を考えることができる。</b> 4. 新政府の中心人物であった大久保利通の考え方を知る。 5. 民撰議院設立建白書についての説明を聞き、民権派の考え方を知る。 6. 新政府(大久保利通)の考え方に賛成か反対か考え、ワークシートに記入する。 ・個人 <b>【学び合いの場】</b> ・班 ・発表	賛成か反対か決め、その理由を考えることができる ・今は、リーダーが引っ張ることが先決であるという大久保利通の考えを補足する。 ・一部の藩の人間が政治をしている。もっと人々の意見を聞くようにというのが建白書の内容であることを補足する。 <b>【思考・判断・表現】（ワークシート）</b> ・班ごとに新政府と民権側、それぞれの立場に立って主張があることを踏まえて考えるよう指導する。 ◆自由民権側と政府側のそれぞれの立場に立って当時の方策の必要性を考察している。 〈Cの生徒への手立て〉 ・考えがまとまらない生徒に対しては、資料に線を引かせ、共感できる言葉を抜き取らせる。 〈Aの生徒への手立て〉 ・それぞれの立場を考えて、両方の意見を考えさせる。 ・グループで意見交換をさせる。 ・賛成、反対両方の意見をグループでまとめ、できるだけたくさん挙げさせる。
まとめ 10	7. 賛成、反対両方の意見を聞いて自分の考えをまとめる。	・各班の意見を参考にして、自分の最終的な考えを個人でワークシートにまとめさせる。

班であらかじめ決められた立場の意見を考える（個人）

↓

班で話し合った意見をできるだけ沢山挙げる。  
なるべく具体的で、いかに反対意見を説得できるか。

↓

意見を聞いて、個人で最終結論を出す。

↓

個人の最終結論を発表。